



愛隣幼稚園.....

園だより

..... 14. 6月号

子どものようにならなければ

今年度もそろそろ 2 ヶ月が過ぎようとしています。先週、初めて幼稚園中のみんながホールに集まってランチデーの食事を共にしました。ここまでくると年度初めにやや振り出しに戻った感じの子どもたちの幼稚園生活もだいぶ軌道に乗ってきた感じがします。そして、あと少しすると毎週の礼拝にたんぼ組が加わり、これで全員が同じ軌道の上に乗ることができた、私はそんな風を感じる季節です。

さて、この礼拝ですが、幼稚園中のみんながホールに集まって行きます。讃美歌（こどもさんびか）を歌い、司会の先生のお祈りに心を合わせ、神様やイエス様のお話を聞きます。もうひとつ讃美歌を歌い、みんなで「主の祈り」をお祈りして礼拝は終りになります。子どもたちが自由にあそぶ時間が長い愛隣の生活の中ではかなり異色の時間なので、毎年「おれ、れいはいきら〜い。」という子どもが必ず現れます。少ない数ではありません。そんなに人気のない「礼拝」ですが、私たちはこの時間をとても大切にしています。子どもたちが神様という存在に出会う時だからです。しかし人気のない礼拝とは書きましたが、実はどの子もお話をよく聞いています。まっすぐに目を見開き耳を傾けて、様々な風景や人物を一生懸命想像しながら聴いています。その眼差しの中にはもうすでに「神様」がいらっしゃって、お話をしている私はその透き通る眼差しに圧倒されてしまうこともしばしばです。聖書にこう書いてあります。―「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。」(マタイによる福音書 18 章 2〜3 節)― 子どもたちにとって「神様」は、出会った瞬間から“目には見えなけれどいる”という存在になるのです。愛隣幼稚園はキリスト教主義の幼稚園です。だからといって子どもたちやご家庭にキリスト教信仰を強要するわけではありません。しかし、私たちには子どもたちにどうしても伝えたいことがあるのです。「あなたはかけがえのないひとりとして神様から愛されている。」ということです。礼拝を通して、日々のお祈りの中に、また仲間や先生とのやりとりの中で子どもたちは神様の「君は大事、大好きだよ。」という言葉聞き、その神様を信頼し今日を生きています。誰かに大切にされている子どもは、誰かを大切にする子どもになります。そして実はこれを伝えたいと願って保育する私たちが、何よりもこの子どもたちから「せんせい、大好き！」というメッセージを日々もらいながら今日もまた、ひとりの保育者として子どもの前に立たせていただいているのです。親という業も同様です。24 時間 365 日年中無休の毎日、体力も使いますが子育ての悩みも尽きることはなく、途方に暮れることもしばしば。それでも、子どもたちからもらう「大好き！」の小さなサインが、“明日も頑張ろう！”のエネルギーになるものです。おとなも子どもも、一人ひとりが自信をもって、その人らしさを発揮して生きるためには、誰かの「あなたは大事。」が必要です。愛されて育っていく子どもたちが、また、ひとを愛し「君は大事」とその人を支える人に育っていきます。親が疲れ果ててしまった時には神様が大きな手であなたの子どもたちを支えてくださっています。同じようにまたあなた自身にも神様が「あなたは大事」と語りかけてくださっています。気付いてもらえたら嬉しいです。

もう卒業した男の子ですが、年長になっても仲間とのやりとりがうまくいかず、ことあるごとにトラブルになり、安心できる仲間がつかれずにいました。クリスマスが近づいたある日。彼が「ともだちができますようになって、かみさまにおいのりしてたから、ぼくにもともだちができたんだよね。」と担任に話してくれました。神様は「どんな君も大好きだよ。」とお祈りする彼に毎日語りかけてくださったのでしょう。そして彼自身が仲間を大事に思う人になることができたのでしょう。こんなエピソードがまた、私たちのエネルギーになり、喜びになります。